



乾期に入ったタイのバンコクでは、艶やかなクリスマスツリーが大型ショッピングモールに飾られ始めた。一方で、本来であれば年末の特売セールで活気に満ちているはずの街の景色は、在庫処分セールに様変わりしている。景気の先行き不透明感が否めない中で12月を迎えているが、今年も残りわずかとなり、2024年に注目されたニュースを振り返ってみた。

1位は「パーツ高」。10月にパーツと1万円との両替で2200パーツ(最高値)をつけた。日本と円建てで貿易決済をしている会社の社長は、原材料価格の変動と違って価格転嫁ができないと嘆く。併せて日本人観光客も減少した。

2位は「ペートンタン首相の誕生」。8月にセター前首相の政権が短命で終わり、タクシン元首相の次女であるペートンタン氏が首

国内経済が足踏み状態

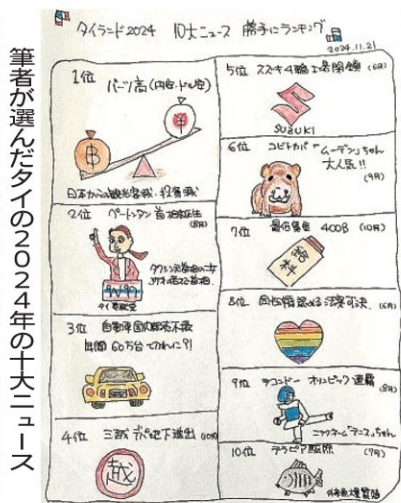
相になった。史上最年少37歳での首相就任であるが、手腕は未知数である。今後の政権運営を見守りたい。

3位は「自動車の国内販売不振」。タイの基幹産業である自動車産業が、銀行ローン審査の厳格化などにより販売不振に陥っている。中国の電気自動車(EV)メーカーのシェア拡大も影響し、日系サプライヤーの中には大幅な人

員削減を余儀なくされている企業もある。

4位は「三越百貨店の進出」。デパートの三越が10月、バンコクにプレオープンした大型商業施設「ワン・バンコク」に、いわゆる「デパ地下」に特化して出店した。バンコクでは、モール全体で出店する形態が多いため、デパ地下のみの進出が現地で認知されるかどうか、気になるところである。

タイ 今年の十大ニュース



5位は「スズキの四輪工場閉鎖」(25年の予定)。自動車はタイの中でも日系のシェアが高い業界といえるが、グローバル生産体制の見直しの一環として、スズキは日本やインドなど他地域での生産集約を決断した。

6位は「コビトカ

バ『ムーデン』大人気」。9月にチョンブリ県にあるカオキアオ動物園のスタッフが、生まれたてのコビトカバの動画をSNSで投稿したことをきっかけに、多くの人たちが動物園に押しかける騒動に発展した。タイ人は交流サイト(SNS)の影響を受ける国民性であることを裏付けた事象であった。

25年は乙巳(きのとみ)の年である。「乙」は発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味するそうだ。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期の到来を示唆しており、成長と結実の時期になると言われている。

24年はタイ経済が少し足踏み状態になった年であった。来年こそは、日系企業の発展はもちろんのこと、日本からのさまざまな支援によりタイ経済が少しでも発展できれば、タイに駐在する私にとって、こんな喜ばしいことはない。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員 事務所長 高橋英孝)